2010筑波大学附属駒場論集50集

# 「私家版」中高６年間のカリキュラム

－扱った教材・文法項目について－

筑波大学附属駒場中・高等学校　英語科
八宮　孝夫

# 「私家版」中高６年間のカリキュラム

－扱った教材・文法項目について－

筑波大学附属駒場中・高等学校　英語科
八宮　孝夫

## 要約

本稿は、中学１年生から高校３年まで６年間を通じて筆者が担当した 59 期生への授業についての覚書である。筆者は、教科書に沿って授業をするより、自主教材を中心に自分で考えたカリキュラムに基づいて授業を展開してきた。補足資料として６年間に扱った教材・文法項目一覧を添付したが、それについて、どのような視点でこのカリキュラムに落ち着いたのか、工夫点、反省点などを述べ、更なる改善へのステップとしたい。

キーワード：GDM(Graded Direct Method)、オーラル・イントロダクション、スパイラル方式の学習、教材のバリエーション

## １　はじめに

筆者はこれまで、中１～中２、中３～高３など別々の形では連続して授業担当をしたことがあったが、中１～高３まで６年通じて授業を担当したのは、今回の59 期生が初めてであった。今回提示した教材・文法項目一覧の内容は、これまで担当した生徒にも部分的に試みてきたが、それを踏まえて６年間のカリキュラムにアレンジしてみた。その際、どのような視点で、このような文法の導入順になったのか、教材の配列になったのかは、一覧表からは見えてこない。そこで、本稿では、いくつかの部分について、背景にある考え方や工夫点、実際に行っての反省点などを述べる。

最初に、中学１年入門期の文法導入順が従来と相当変わっているので、それを詳説する。次に中２での不定詞・受動態の扱い、中３での読み物重視への移行について述べる。高校のカリキュラムは、３年間を通じての目標と、そのための教材の配列について言及する。最後に、高３の２学期の実践について述べ、まとめとしたい。

## ２　中学１年入門期

### ２．１．提示しやすさを考えて

現行の教科書(*New Crown English Series* 三省堂)では、中１の文法導入順は以下のとおりである。

１学期：This is .../ That is ... →I am .../ You are... →I play.../ Do you play ...?
２学期：He is.../ She is...→He plays.../ Does she play...?　→I am playing.../ He is playing...
３学期：I played.../ Did you play...?

つまり、１学期は This is.../ That is...を除くと、１人称・２人称の be 動詞、一般動詞のみで、２学期になって初めて３人称の be 動詞、一般動詞、その後すべての人称の現在進行形と進み、３学期に１人称・２人称の過去形、という流れである。

これに対して、「私家版」では以下のようになっている。

１学期：I am.../You are.../ He is.../ She is ...など全人称と be 動詞の現在形
２学期：be ...ing の現在進行形　→be の過去形 was/were→未来形 will be →一般動詞の過去形
３学期：現在進行形、過去形、未来形 will を踏まえてすべての時間にわたる一般動詞の現在形

現在進行形や過去形、will を導入してから一般動詞の現在形を導入するなど、一見すると無謀なように思われるが、これは 1994 年度版の「基礎英語１」の執筆者の１人である手島(1995)のカリキュラムに基づいており、そのベースにあるのは GDM(Graded Direct Method)の考え方である。

GDM では、母語を介さずに意味がわかるような状況設定がされており、既知の文法事項との対比によって道のものを理解させるような段階付け(grading)がなされている。常識に反しているように見える、一般動詞の現在形に先んじて現在進行形を導入することも、

The Private Edition of the Curriculum of English Teaching from 7th Grade through 12th Grade

状況での提示のしやすさの点では、習慣的動作という目に見えない概念を表す現在形よりも、目の前で動作を演じて導入できる現在進行形のほうが、ずっとやりやすいのだ（GDMについては、升川(1975)に詳しい）。

実際問題としても、教科書のように1学期間 I/You のみで続けるのは結構難しい。例えば"I am a teacher."という文を生徒にリピートさせるのは不自然であり、You で始まる文も同様である。I/You が理解されれば、それとの対比で3人称 He/She/It を導入するのは比較的容易であるし、その第3者を英語で提示し、"He is a teacher."をリピートさせるのは不自然なことではない。結局、オーラル・イントロダクションの基本は教師(I) が生徒(you) に対して第3者的な何かを英語で提示し導入することであるから、なるべく早い段階で3人称の代名詞を導入するほうがよい。

「私家版」のやり方では、1学期に be 動詞中心のために、一般動詞の導入が遅くなるという反論があるかもしれない。これを補うため、耳の訓練もかねて H.E. パーマーの提唱する Imperative Drill を行う。これは「命令形」を用いて、学習者がそれに反応することで、英語が理解できたかを確かめる訓練である。例えば、体の部位を表す名詞を導入した後に"Touch your head / nose / eyes ...etc"といって学習者にその動作をさせるのである。これにより、語彙の理解を確認することができ、また聴解の訓練にもなる。もちろん、touch はまず、教師がデモンストレーションするわけである。Stand up / Come here / Write your name on the blackboard / Go back to your seat など一連の動作をさせることもできる。このようなやり方で基本的な動作動詞は1学期に親しませておく。これが2学期の現在進行形の導入にも役立つのである（なお、詳しくはパーマー(1925)を参照）。

### 2．2．過去形の導入は不規則変化動詞から

2学期の過去形の導入も、従来のやり方では初めに規則変化の動詞で行っている。現行教科書でも *New Crown* 1 では"I played soccer yesterday." が初出で、他に出てくる動詞も ask, start, listen, watch, practice など規則変化動詞ばかりである。*New Crown* 2 の第1課で初めて "Amy went to Sydney." と不規則動詞が登場する。

一般に、規則的なものから不規則へと進むほうが理にかなっているように思われる。しかし、口頭で導入する場合には、語尾の-ed の違いは、聞き落とすかもしれない。むしろ現在形とはっきり異なる過去形を持つ不規則動詞のほうがよいとも言えるわけである。「私家版」の一覧表の中で、過去形の初出が "This is Kawabata Yasunari. He wrote *Snow Country*."であるのは、このような理由による。無論、不規則動詞ばかりを出すのは、記憶にも負担になるので、学習者に「過去の概念」を表す形を提示しているのだとわからせた後は、規則動詞も積極的に出して、圧倒的に多くの場合には-ed をつければ過去形になることを悟らせればよい。

なお、ここまでは文法事項を導入するための状況設定中心で、それを応用したひとまとまりの話のようなものは導入してこなかったのだが、ここで初めてベアトリクス・ポッターの *The Tale of Peter Rabbit* をやさしく書き換えたものを利用して、過去形のバリエーションを増やした。この物語の利点は、まずなじみのあるキャラクターで話自体が面白いこと。そして、イラストが豊富で絵を提示しながら話を再現する Show and Tell が可能なこと、があげられる。

### 2．3．一般動詞の現在形の難しさ

3学期には will を用いた未来形を導入し、過去形と未来形を利用することで、過去から未来まで続く習慣という概念を提示し、現在形を導入する。ここまで、現在形の導入を引っ張る必要があるのかという疑問もわくだろう。しかし、前述のパーマー(1925)でも、現在形については "this form does not lend itself to ostensive treatment"として、その扱いは慎重で、現在進行形や過去形よりも後に回している。同書の P35 でも現在形を提示する状況の難しさに触れ "In actual speech usage, it is only the stage magician or a demonstrator in a science classroom who would accompany his actions by verbal statements in the simple present tense ("Now watch me closely, Ladies and Gentlemen, I take this hat, I take this coin, I place the coin in the hat and cover this hat with this handkerchief ..." etc)と述べている。

3人称単数現在形を除いて、現在形の形が、いわゆる原形不定詞と同形であることも、I <u>play</u> と Do you <u>play</u> の2つの play が実は別物であることをわかりにくくしている。

筆者にも、どの形を先に導入したらよいか、明快な答えはないが、現在形の扱いは慎重であるべき、ということは強調しておきたい。

## 3　中学２年での留意点

### ３．１．情報構造的に重要な受動態

中２は英語のつまづきとなるような文法項目が多い。とりわけ、不定詞と受動態は双璧である。しかし、だからこそ早めに導入して、さまざまな文脈で使用される例に何度も触れさせることで定着させていきたい。

教科書では中２の１学期に不規則動詞の過去形、未来形 will、there is/are、比較級などが扱われるが、「私家版」では、比較級以外は１年で導入してしまうので、この時点で不定詞と受動態を導入する。

導入としては受動態の方がやりやすいかもしれない。例えば、“made in Japan” とか “presented by Sony” というようなフレーズをテレビでも聞く機会があるので、それを元に「受身」の概念を導入する。ただし、ここでも過去形と過去分詞形が同形のものは返って紛らわしいので、written や spoken のように過去形とは異なった形を利用したい。初めのうちは、色の違うカードなどを用いて過去形と過去分詞形は区別するとよい(例えば、過去形は赤いカード、過去分詞形は黄色のカードという風に)。

受動態のメリットは、何だろうか。受動態を学ぶ前は以下のようにしか表現できない。

a) This is *Botchan*.　Natsume Soseki wrote it.

これは、情報構造的にすっきりしていない。Natsume Soseki という新情報が文頭に来ているからである。ところが受動態を学ぶと

b) This is *Botchan*.　It was written by Natsume Soseki.

これなら、情報構造的に自然な文の流れになる。受動態というと、能動態からの「たすきがけ」による変換の練習になりがちであるが、能動態か受動態かの選択はこの情報構造の視点によって決まってくることを理解させたい。

### ３．２．多彩な機能を持つ不定詞の「核」

受動態に比べると、不定詞は機能が多彩で、より理解させるのに困難を伴う。受動態と違って、過去分詞のような特別な形はないが、「to +動詞の原形」という単純な形が、他の動詞や名詞と連携して多彩な意味を表すところが特徴だ。そのためか、「名詞的用法」「形容詞的用法」「副詞的用法」などと分類されて導入されることが多い。それに該当する日本語も多様で、それで必要以上に不定詞を難しくしている部分もある。

「私家版」では、これらの不定詞の用法を、筆者が作成した The Story of John Manjiro という話に中に巧みにちりばめ、不定詞の全容が見えるようにした。通常は be happy to…や how to…はもう少し先に進んでから導入されることが多いが、これらも含めて、これらに共通する核を導入のときは「名詞的」というような名称は避け、「want/decide のような動詞に続く場合」、「something などの名詞に続く場合」「文に続く場合」と用いられる状況で働きをわからせるようにした。そして、日本語にすると意味は異なるが、核になるイメージは to 本来の持つ「～の方向へ」という意味であることを強調した。例えば「want to +動詞の原形」であれば、「～する方向で欲する」と理解させる。徒に「～することを欲する」としてしまうと、「to+動詞の原形」の持つ、動的な感じが失われ、動名詞の表す「～すること」との違いがわからなくなってしまう。

不定詞を１学期に導入すると、夏休みに supplementary readings を課題にする場合に格段にバリエーションが増えるという利点がある。少しでも読むに耐える物語の場合不定詞が使用されていないものは考えられない。逆に言えば、語彙が制限されているものでも不定詞が用いられているレベルのものは読み応えがある作品も多いのである。「私家版」では、夏課題として *The Adventure of Tom Sawyer* (Macmillan: Beginner Level) を使用した。Beginner Level とはいえ、50 ページ強のそれは原作の筋をほぼ網羅しており、CD 付きでもあって優れた読み物である。英語を学習して１年半ほどで 50 ページもの長さの話が読めるということは大きな自信になると思われ、また不定詞が多用されているのでその復習にもなる。ディズニーの DVD に Tom Sawyer があり、しかもそちらは話の結末が原作とは微妙に異なっているので、２学期に鑑賞させ、比較させるのも面白い。

### ３．３．スパイラル方式の文法学習

２学期には、埼玉県からの長期研修で来られた方に授業を担当していただいた。扱ったのは教科書で、ちょうど不定詞や受動態のでている課であったから格好の復習になった。教科書では文法の新項目が線状的に次から次に出てくるが、やや先行しながらいくつかの文法項目を扱い、それを次の学期で復習しなおす、いわばスパイラル的な方式というアプローチもあるのではないかと思う。新しい文法項目は、１度で理解できることはまれで、何度も他の例に当たりながら、徐々に理解が深まるので、その意味でもやや難しいと思われる文法項目ほど先送りせず早めに導入し、繰り返し

繰り返し塗り直していく、ということが大切である。

２学期までに、中２で学習すべき文法項目を扱ったので、３学期には、現在完了形と関係代名詞を導入した。これも中３でもう１度扱うのでスパイラル方式の一環である。

現在完了形は、すでに受動態で過去分詞を導入しているので、形式的にはあまり負担はない。過去形とのニュアンスの違いが大事だが、やはりいくつもの例・文脈に触れさせて理解を深めさせるしかない。

関係代名詞は、２つの文を１文にする、というような操作に終始しがちであるが、むしろ修飾句のバリエーションとして捉えるべきである。ここで効果的なのは、「私家版」でも示した Nursery Rhyme の "The House That Jack Built" である。That という「接着剤」によって次から次に新しい情報が加わっていくことがわかり、また口調もよいので、まず理屈抜きで暗誦することができる。最後は相当長い文になるので、あせらずに３，４回に分けて、that で加えるものの絵などを提示しながら、徐々に導入することが大切である。これは実際に、学期末に暗誦発表させたが、予想以上に熱心取り組んでくれた。

## 4　中学３年生 - 内容重視に移行

中学３年生ともなると、教科書で扱う話題も原爆で発病した少女の話や黒人差別と戦ったキング牧師の話など、内容的にも「重い」課が多くなる。その上、現在完了や関係代名詞も導入するとなると二重の負担となる。そこで「私家版」では、中２でこの２つの文法事項を扱い、中３では内容重視の導入を行いながら、文法事項を復習するというスパイラル方式を取っている。

中３では上記の項目以外は SVOC に属するような make [find] him happy や tell [ask] him to do のパタン、so～that...、too～to...のような表現が主なものである。中２までは文法の導入が主、本文の内容が従のようなところがあるが、中３では文法の導入より内容により重点を起きたい。内容的には上述した社会的な問題のように、かなり背景知識を導入する必要のあるものがあるので、それ以外の読み物にバリエーションを持たせるようにした。例えば、ギリシャ神話の Theseus and the Minotaur、*The Black Cat*、*Romeo and Juliet* など。通常の教科書では、補足の形で付いている程度で内容的にも分量的にも学習者をぐいぐいと引っ張っていく様な作品は少ない。しかし中３ともなれば、少し読みごたえのある作品を読ませたい。最近は、各種の graded reading materials が手に入るので、そういうものを積極的に利用したい。

## 5　高校３年間のカリキュラムの視点

### 5．1．高校３年の目標

中３で部分的に扱ったキング牧師のスピーチを、高３では全文扱い、理解させ、一部を暗誦する、ということを１つの目標にした。キングのスピーチには２つの歴史的な文書を踏まえたところがある。１つは"all men are created equal"というところで、これは独立宣言からの引用である。またスピーチの冒頭の "Five score years ago", はリンカンの Gettysburg Address の冒頭 "Four score and seven years ago", を踏まえたものであり、実際リンカンへの言及もある。そこで、高１で独立宣言を扱い、高２でリンカンの演説を扱う、ということを柱に３年計画を立てた。

### 5．2．扱う内容と文法項目

内容的には、あまり特定の分野に偏りすぎないよう留意した。まず、英語自体の歴史や詩のように言葉の芸術に関するもの、様々なジャンルの読み物を扱うよう心がけた。また、上述したような歴史的な演説や社会的な分野もカバーするようにした。筆者の力量から言って本格的な科学論文はとても扱えないのだが、それでも科学的な内容もなるべく盛り込むようにした。「私家版」のものを分野別に分ければ以下のようになる（高２の終わりまで）。

文学系：英語の歴史、英雄伝（Beowulf）、エッセイ（Railroad Man）、ギリシャ神話、SF(Curse)、詩、児童文学(Pooh)、 シェイクスピア劇(Merchant of Venice)、本格的短篇(Coup de Grâce)

社会系：独立宣言(Thomas Jefferson)、女性初の議員(Jeannette Rankin)、南北戦争、リンカンの演説

理科系：宇宙との交信(Are We Alone?)、南極探検(Robert Scott)、環境問題(Rachel Carson)、脳の科学、種の起源(Charles Darwin)

一見して、文学系が多いが、高３のリーディングでは社会系、理科系の文章が多いので、全体としてはかなりバランスが取れているのではないかと思う。

これらを、それぞれの学期で文学・社会・理科を扱うように配したが、これは必ずしもうまくいっているとはいえない。

文法的には、仮定法、分詞構文、SVOC（使役・知

覚動詞)、過去完了、完了不定詞、with 構文などだが、中学のときと同様、スパイラル方式で、なるべく早めにいろいろな文法項目を出し、繰り返し扱うようにした。これらの文法項目は、お互い関連した事項も多いのである。例えば、

1 SVOC と with 構文→with の後に来るのは OC の関係になるもの。つまり目的語と補語の「ネクサス関係」を捉えさせる点では共通。
2 分詞構文（独立分詞構文）と with 構文→単純に言えば、独立分詞構文とは with 構文から with を取ったものである。
3 may [must] have + 過去分詞、to have +過去分詞、having +過去分詞→言及している時制までには完了した出来事を示す、つまりそれより以前の出来事を示すという点で共通

これらのことに着目すれば、関連付けることで理解をさらに深めることが出来る。

### 5．3．1時間の指導手順について

これまで肝心の1時間の流れを述べていなかったので、ここで触れることにする。基本的に、中学でも同じ流れで進めてきた。

1 前時の復習(Review)：中学では、絵など示しながら、前時の内容を再現したりしたが、高校は分量も多いので、筆者が作成した要約(summary)の穴埋めをすることで復習とした。
2 本時の内容の口頭導入(Oral Introduction)：新教材の背景知識や新出語などを生徒とのやりとりを通じて英語で導入する。中学では、話の相当の部分を導入するが、高校では分量も多く、また独力で読む部分を残しておくことも必要なため、背景知識を中心に導入して、それを元に各自で読んでわかるところは、導入しない。
3 黙読し内容に関する質問に答える(Silent Reading for Finding Answers)：情報を求めて各自読む段階。中学では、内容に関するキーワードを空欄にしておき、それを埋めるという活動の場合もある。
4 内容の説明(Explanation)：質問に対する答えを確認しながら、難しい部分を解説する。これは日本語で行う。
5 まとめの音読(Reading for Consolidation)

最後のまとめで、板書した内容を配って、口頭再現(Oral Reproduction)の練習を課したこともあったが、なかなか定着しなかった。これは今後の課題でもある。なお、筆者は6年間授業プリントを中心に授業をしてきたので、基本的に予習は課さず、常に扱う教材は生徒にとっては初見のものであった。Oral Introduction の具体例については八宮(2010)を参照。

### 5．4．3年の2学期の実践について

高1、高2の実践については論集第 48, 49 号に報告し、高3リーディングの実践についても本号で報告している。ここでは、高3の2学期のキング牧師の実践について述べたい。

当初、キングのスピーチは9月はじめに扱おうと考えていた。11 月以降では入試も近く、それぞれの必要に応じた勉強にシフトしている頃だと思ったからである。ところが、9月には既に体育祭・文化祭への準備でかなり疲労の色が見え、10 月には欠席者さえ目立ってきた。結局のところ、文化祭終了後の 11 月中旬にやるしかなかった。

キング牧師のスピーチを扱いたいと思ったのは、このスピーチが有名な割には、扱われるのは最後の I have a dream の「たたみかけ」からばかりで、全体を扱うことが少ないように思われたからだ。このスピーチは、むしろ前半から中盤にかけてが重要で、しかしそれを理解させるには歴史的な背景が必要である。だからこそ、3年計画で取り組んできたのだ。

まず、若林(1995)、新川・森山(1984)などを参考に、注釈を脇につけたハンドアウトを作成した。キングのスピーチは分量的にも内容的にも4つくらいに分けられると思い4時間で扱うことにした。

“I am happy to join with you today…”で始まる文は非常にゆっくりで、リンカンの奴隷解放宣言にもかかわらず100年たっても相変わらず黒人は差別に苦しめられていることを述べる。ここで言語的に気づくのは、比喩、それも対句的な比喩が多いことである。例えば、“the Negro lives on a lonely island of poverty in the midst of a vast ocean of material prosperity.” など。そして、この現状を変えるために、“cash a check” という比喩を用いながら、自由という約束手形を変えに来たのだ、と続ける。つまり歴史的な流れから、ワシントン D.C.に集った目的を表明しているところまでを1時間目に扱う。

2時間目は“We have also come to this hallowed spot…”からで、ここに集まったもう一つの目的を述べる。曰く、黒人に対して自由・平等の権利を与えることの緊急性(fierce urgency of now)をアメリカ（の白

人）に訴えるために、である。現状のままでいることは“it would be fatal”であり、いずれ“The whirlwind of revolt”が起こるだろうと言う。若林によれば、キングは「表面上は下手に出ながら、脅迫している」のである。正に交渉術のお手本と言ってよい。しかし、キングはアメリカを脅迫しているだけではない。“But there is something that I must say to my people...”と初めて、自由の運動に際して暴力に訴えてはならない、と同胞を戒めてもいるのだ。ここまでが２時間目。

次は、“When will you be satisfied?”と問われたら、今の様々な不平等のままでは“We can never be satisfied...”と何度もたたみかける。後半でもそうだが、この「同じフレーズのたたみかけ」もキングの特徴である。その後、“Some of you have come here out of great trials and tribulations...”と続け、ここまで来るまでに苦労してきただろう、と同胞を慰め、必ずこの苦労は報われる(unearned suffering is redemptive)、と励ます。そして有名な“I say to you today, my friends, so even though we face the difficulties of today and tomorrow, I still have a dream.”へと続く。このフレーズは、黒人差別ばかりでなく、様々な困難に立ち向かうようなメッセージ性があるのでアピールする理由はよく理解できる。“I have a dream” の「たたみかけ」までが３時間目。

最後は、“Let freedom ring”でさらに駄目押しをする。この部分は、構文的な難しさはないが、アメリカの歴史的に有名な地名が次から次へと出てくるので、正直、実感を伴って理解することは難しい。ただわからなくても、このリズム自体が非常に快いのである。

一応、内容を押さえてからビデオによってスピーチの映像を見せ、再確認させた後、印象に残った部分を１分程度暗誦、という課題を出した。２学期に扱った別の話題について述べたいという生徒もいたので、それも認めることとした。

発表当日、圧倒的多数はキングのスピーチを選んだ。一番人気があったのは“I say to you today, my friend,”以降であったが、“I'm happy to join with you today”で始まる冒頭部分も結構人気が高かった。また、“Now is the time...”あたりを選んだ生徒もいた。興味深かったのは、初めの生徒が冒頭からはじめて、その後の生徒からは次から次へとそれに続く部分を発表していったクラスがあったことだ。当然のことながら、このクラスが一番盛り上がった。あとに続く生徒は、バトンを渡された走者よろしく、キングのスピーチのいいリズムを保ったままでその次の生徒に引き継いだからである。そのとき感じたことだが、印象に残った部分、と言ってもいきなり文の途中からキングのスピーチのリズムに持っていくことは難しいということである。やはり、一連の流れの中でやって初めて、あのリズムが出せるようになる。

ただし、教師が予め冒頭から順々に発表しろ、と言ったら、今回の盛り上がりがあったかわからない。生徒が自分たちで考えて工夫したからこそ、自分たちでも楽しんでいる様子が伺えたからである。

なお、なぜその部分を選んだのか英語で書かせたのでいくつかあげておく。

I chose the 3rd and 4th paragraph for my speech. I chose this part because of its simplicity and impression. In these paragraphs, the same phrase, “one hundred years later,” appear as many as 4 times.

I thought that repeating the same phrase would help me to memorize the chosen part and to make a rhythmical speech.

In addition [to] that, I was impressed by King's passionate emphasis on the repeating phrase.

Therefore I made a speech, quoting this part.

(3-2 Y)

I chose this passage because I was very impressed by this. Using the same phrase “I have a dream” many times conveys to us King's wish and desire very effectively. And I just found when I copied this passage into this paper that this passage is written by [in] simple English. So I think that everyone who was listening to this speech was able to understand his wish very easily and that this is one of the reason[s] why this speech moved so many people.

I was able to understand King's speech more deeply than when I was a junior high school student. It is also good for me that I was able to listen to this speech from first to last.

(3-3 T)

I chose the last two paragraphs because I thought they contained the most important stuff of King's thought. I felt the strength of his desire when I heard this part.

I'm sorry I couldn't remember them, but I was happy that all classmates listened to me quietly.

(3-3 F)

冒頭から最後までの発表を行ったクラスの生徒は次のように書いている。

I have two reasons. I select the 13th paragraph. The first is joining the secret plan to complete all of "I Have a Dream" speech. About fifteen classmates speak the part of "I Have a Dream" speech in order. The first speaker, Mr. Yoshimura, speaks the 1st and 2nd paragraphs and then, next speaker, Mr. Yokoi, speaks the 3rd and 4th paragraphs. So it follows that we can complete all. In the plan, I take charge of the 13th paragraph.

The second is the contents of the 13th paragraph. This paragraph is not so popular, but this shows that King's position was very different from Malcolm X's, in that King wouldn't revenge white people. Though black people suffered from the severe segregation, they applauded for his speech, "their destiny is tied up with our destiny." It was a very wonderful and enlightened idea and I'm so impressed. (3-2 M)

## 6 おわりに

現在の教科書は中学でも高校でも「スピーキング活動」や「リスニング活動」がバランスよく配置され、sound practice などもところどころにあって、工夫も見られる。筆者も、「私家版」と言いながら教科書の教材も随分と利用している。しかし、全体からすると、扱われている内容が今一つアピールしてこないのである。複数の執筆者が検討を重ねて作った教科書に敢えてこだわらず、「わが道路線」で6年間やって来たのは、この理由が大きい。

教師が「こんな教材を生徒にぶつけたらどんな反応が返ってくるだろうか」とわくわくしながら準備をするのが好きなのだ。どう見ても科学的なやり方ではないので、時折、完全に空回りすることもあるが、総じて生徒はこちらが面白いと思いながら与える教材に対してはいい反応を返してくれる。学期末に行うパフォーマンス・テストでは、扱った題材についてこちらが知っているよりはるかに多くのことをフィードバックしてくれる。改めて、ともに学んでいることを実感する瞬間である。

一方で思い込みが強すぎて失敗した例もある。高1夏課題の *The Body* は以前も扱い、好評だったので今回もやってみたが、中3で使用した Graded Readers は Level 3 なのに、*The Body* は Level 5 の upper-intermediate なのだ。やはり、1つステップを跳び越した教材は負担になり、かなりの生徒を未消化に終わらせてしまったのではないかという反省がある（一旦冒険に入れば読み進めるのだが、冒頭に少年時代の内省シーンがあり、そこがハードルを高くしていると思われる）。

また、筆者は前時に学習した内容が曲がりなりにも英語で説明できるようになれば一人前、と思っているが、やはりこのレベルにもっていく手法はまだ確立できていない。英文サマリーなども、穴埋めから徐々に自分で書いていく部分を増やしながら、生徒のサマリー能力を上げる実践もあるが、筆者は段階的な指導はうまくいかず、教師側で用意した穴あきサマリーで復習することが多かった。ただ、そのやり方で生徒が何も学ばないかというとそうではない。高3になって何回か書かせた英文サマリーを見ると相当書けるようにはなってきているという実感はある。

今回、6年間を再度概観して見えてきたものもあるので、この経験を次の実践に活かしたいと思う。

### 参考文献


新川右好・森山淑夫編注(1984)『キング牧師とアメリカの夢』. 三友社出版.

八宮孝夫(2010)「オーラル・イントロダクションと情報構造」『語研ジャーナル』第9号. 語学教育研究所.

升川潔(1975)「リチャーズの意味論と GDM」『言語理論の生かし方』. 開隆堂出版.

パーマー、H.E. (1925) *English Through Actions* 開拓社.

手島良(1995)「私案・入門期のカリキュラム」『私家版 英語教育ジャーナル』. 若林俊輔教授退官記念論文集編集委員会.

若林俊輔(1995)「スピーチ I Have a Dream の魅力」『現代英語教育』10月号. 研究社.

## 補足資料：「私家版」中高６年間の教材・文法事項一覧

## ☆中学３年間に扱った教材･文法項目

**中１・１学期**

基本的には『NHK ラジオ基礎英語１』(1994 年度版)の課に基づく。

ウォームアップ：日本語に入った英語(外来語)を引き合いに出して、英語音との比較

1)milk / bed / bus / box / jeans / spoon / skirt / grape / boat / pie /door / chair / car など

2)coffee / lemon / orange / sandwich / soccer / tennis / racket / volleyball guitar など

B, HB, H, F / S, M, L / CD, FM, AM / WC / PTA など(大文字の導入として)

3)Good morning, class. How are you? -- Fine, thank you. And how are you?

mm, cm, m / dl, l / a, ha / g, kg, t / (小文字の導入として)

以下、扱ったキーセンテンスを記す(まず、音声で導入。文字で書くのは徐々に)

4)MY / YOUR ? YES / NO: Your pen? – Yes, my pen. Thank you. – Welcome.

5)I AM / YOUR ARE / HERE / THERE / IS など: My pen is here. My notebook is there.

6)THIS / THAT: This is my pet, Tama. That is Tama, right? Yes, Tama!

7)NOT / OR / WHAT: Is this your dog? No, it isn't. It's Taro's dog, Shiro.

8)初の TT：This is Mr. Pritchard. – Hello. Nice to meet you. / Numbers 1- 12

9)WHERE / 教科名など: I'm from Huntsville, Texas. My favorite food is soba. / 13-20

10)WHO / HE / SHE：Who is this? It's Miss Fujiwara. She's Nonoko's teacher./ ～100

11)AN / A： This is Dracula's eye. That is an eye.

12)THE: This is a letter. This is a letter, too. The letter in my right had is "R".

13)(TT)WHEN / 序数など Today is May the twenty-fourth.

14)THESE / THOSE / ARE： These are erasers. Those are books.

15)THEY / WHOSE: Are there your bags, May? - No, they are June's bags.

16)(TT) 色など: How tall are you? - I'm 170 centimeters tall.

18)これまでのまとめ１: This is a man. - Who is the man? - He is Mr. Lincoln.

19)まとめ２: This is a woman. - Who is the woman? - She is Queen Elizabeth.

20)(TT) 時間表現: This is a clock. These are hands. This is an hour hand. It's short.

21)ON / IN など前置詞: Where is the butterfly? - It's on the desk.

22)時間表現２: What time is it in Sydney? - It's eight in the morning.

23)(TT) 電話の表現: Hello. This is Roy. Is this Ken?

24)HAS： May has a dog. This is her dog, Alex. It has a long tail.

25)HAVE： A ladybird has six legs. A butterfly has six legs. Insects have six legs.

26)現在進行形: Touch your head. He's touching his head. - Yes, I'm touching my head.

**発表活動**：お札の説明、時計の説明、チョウチョの説明のうち１つを演じる

**中１・２学期**

1) 実習生紹介 My name is Matsumoto Sayaka. I'm studying international relations.

2) 1 学期のまとめ(TT) My house is near Shibuya Station.

3) IS/AM/ARE ～ING 現在進行形 I'm scratching my head.

4) It is 7:45 now.　Tom is eating breakfast.

5) (TT) Where are you now?　And what are you doing now?

6) WAS/WERE 過去形 One year ago, I was an elementary school student.

7) In this picture, Miss Matsumoto is standing in front of Uluru.

8) (TT) WAS/WERE ～ING 過去進行形:　She was staying with the Thompsons.

9) (TT) 天候表現:　How is the weather today?　What is the temperature?

10) It was cool yesterday.　What was the high yesterday?

11) (TT) This is a firefly.　In May, it was a glowworm.　It was living under logs.

12) WILL (BE)未来表現:　It is cloudy today.　How will the weather be tomorrow?

13) DID + V 過去形:　This is Kawabata Yasunari.　He wrote *Snow Country*.

14) (TT) What did Mr. Pritchard do last Sunday?　He did some exercises.

15) This is *The Thirteen Problems*.　Who wrote it?　Agatha Christie wrote it.

16) THEM:　J.K. Rawling wrote only six fantasies, but all of them are best-sellers.

17) Van Gogh painted *Sunflowers*.　When did he paint it?　He painted it in 1888.

18) Marie Curie discovered radium in 1898.

まとまった文章を扱い、過去形に習熟（*The Tale of Peter Rabbit* を書き換えたもの）

19) This is Beatrix Potter.　She wrote *The Tale of Peter Rabbit*.

20) Peter ran straight away to Mr. McGregor's garden.

21) COULD: Peter rushed all over the garden and ran into a gooseberry net.　He couldn't move.

22) Peter got home to the big fir tree.　He was very tired and fell down.

**発表活動**：本などを示しながら、誰が、いつ書いたかなどを英語で説明する(過去形)

**中１・３学期**

1) 過去形復習 Humpty Dumpty sat on a wall.　Humpty Dumpty had a great fall.

2) WILL / SOME: This is Mary. She will make an omelet. Now she is making an omelet.

3) WON'T:　Look!　That is a baby swallow.　It will fly in a few days.

4) (TT) DOES + V 現在形１:　He got up at six yesterday.　He will probably get up at six tomorrow too.　He gets up at six every day.

5) Do + V: 現在形２ Mr. Suzuki and Mr. Machida teach math.

6) CAN / CANNOT：　Kumi studies Chinese.　So she can speak Chinese a little.

7) (TT) How many lessons do they have in a day?　They have seven lessons.

8) This is a hippopotamus.　'Hippo' means 'horse' and 'potamus' means 'river'.

9) THERE IS / THERE ARE 曜日名の由来:　There are nine planets in the solar system.

10) 月名由来 December is the twelfth month of the year but it means 'the tenth month'.

11) THERE WAS / THERE WERE 月名由来２:　There was a great leader in ancient Rome. His name was Julius Caesar.

12) 名前の由来:　Where did the name Michael come from?　- It came from the Bible.

13) The word 'mappa' came from *mappa mundi*.

**発表活動**：自分の名前の由来を英語で説明する(現在形・過去形)

**中学２年生以降に扱った教材・文法事項一覧**

**中２・１学期**

1　Life in Australia　(*New Crown* 2, L.1 を改編したもの)

主な文法：比較級・最上級

*Australia is 21 times larger than Japan.

*Sydney is the oldest city in Australia.

*Cricket is more popular than baseball in Australia.

*By 1830's, there were more British than Aborigines in Australia.

2　At the Zoo　(*New Crown* 2, L.3 を改編したもの)

主な文法：will の復習、受動態

*Ueno Zoo was founded in 1882.　(過去分詞の導入)

*Orangutans won't survive without their forests.

*They are also threatened by hunting.

*This is the *Origin of Species*.　It was written by Charles Darwin.

3　The Story of John Manjiro（自主教材）

主な文法：不定詞

*Manjiro decided to go with the captain.

*Manjiro went to California to earn money.

*They were the first samurai to visit America.

*Manjiro was really happy to see the captain.

*He showed us how to read English words in *katakana*.

**発表活動**（パフォーマンス・テスト）東京地域研究を班ごとに英語で発表する

**夏課題**：*The Adventures of Tom Sawyer*　(Macmillan:Beginner Level)

**中２・２学期**　(埼玉県からの長期研修の方に授業をしていただく)

4　The Adventures of Tom Sawyer (夏課題の復習)

5　Ratna Talks about India (*New Crown* 2, L.6)

主な文法：動名詞、S + V(look) + C,　S + V(give) + O + O

*I like wearing a bandana..

*You look happy.

*If you have any questions, please ask me.

6　How Can We Find Out? (*New Crown* 2, L.7)

主な文法：比較級・最上級の復習、同等比較

*This building is more beautiful than other buildings.

*New York is as hot as Tokyo in June.

7　Landmines and Children (*New Crown* 2, L.8)

主な文法：受動態の復習

*These signs are seen in the forests of Cambodia.

*Was Angkor Vat built in the 12th century?

**発表活動**：今までに行った場所の紹介(比較級を用いて)

**冬課題**　*Sherlock Holmes*：*Short Stories* (Oxford Univ. Press:Bookworms, Stage 2))

**中２・３学期**

8　*Sherlock Holmes*:第１話 The Speckled Band（冬課題の復習）

9　Konrad Lorenz　（旧版 *Sunshine English* 2 のある課を改編したもの）

主な文法：現在完了形

*I've studied animals since I was a boy.

*Have you ever read *King Solomon's Ring*?

*Have you read the book yet?　- Yes, I've already read it.

10　The House That Jack Built (*Nursery Rhyme* より、早口言葉)

主な文法：関係代名詞の導入（that)

*This is the cat that ate the malt that lay in the house that Jack built.

11　Mujina (Hearn's *Kwaidan* を改編)) + Lafcadio Hearn　（自主教材）

主な文法：関係代名詞 who, which

*The last man who saw the Mujina was an old man from Kyobashi quarter.

*Haiku is a short poem which has only 17 syllables.

**発表活動**：　1)The house that Jack built を暗誦発表

2)人物紹介（歴史上の人物、有名人を関係代名詞を用いて）

**中３・１学期**

1　The Story of a Shoe-maker　（*New Crown* 3, L.1 の Listen）

2　Tanzania　（*New Crown* 3, L.2 の改編）

主な文法：完了形の復習、受動態の完了形、may/must have + 過去分詞、

*Fossilized bones have been discovered in various parts of the world.

*Australopithecus must have walked upright like we do.

3　Theseus and the Minotaur　（成美堂：『ギリシャ神話』の改編）

主な文法：分詞の応用（名詞の修飾、see + O + ...ing）不定詞の応用(want O to ...)

4　Sadako and the Thousand Paper Cranes　（*New Crown* 3, L.4 の改編）

主な文法：make ○ ～（形･動）/ It is ～（for ○) to ... / call ○ ～

*The pictures of Hiroshima made me shocked.

*It is possible for me to get well.

*We called the atomic bomb "Little Boy."

**発表活動**：Theseus and the Minotaur の一節の朗読テスト

**夏課題**　*O. Henry's Stories*　（開隆堂:New Easiest Series 中３前期用）

**中３・２学期**

5　Martin Luther King: I have a dream　（*New Crown* 3, L.6 の改編）

主な文法：関係代名詞の復習 that, who, which,　関係詞･what, 関係副詞 where

*He had a dream that is important for all of us.

*There were many things that African-Americans could not do.

*Mrs Parks was a black woman who always took the bus home from work.

6　*The Black Cat*　by E.A. Poe　(Penguin Readers, Level 3 より改編)

主な文法：hear [see] ○ ～ing / too ～ to … / ask ○ to ～ / with ○ ～

*I heard people outside shouting "Fire!"

*I am almost too afraid to name the object.

*They asked me to come with them.

*There was a cat standing on her head, with his red mouth wide open.

7 Gregor Mendel – the Father of Genetics （自主教材）

主な文法：関係詞 what（復習）/ 前文の内容を受ける which / make it ～(形容詞) to .

*Mendel was born in a small village in what was then Austria.

*Nobody took notice of it, which was a great pity.

*His new duties made it difficult for him to continue with his studies.

**発表活動**：キング牧師スピーチの暗誦

**冬課題**：*Romeo and Juliet* （開隆堂:New Easiest Series 中３前期用）

**中３・３学期**

8 O.Henry's Stories の復習・O. Henry について

1)Christmas present 2)A Reformed Man

9 Romeo and Juliet の復習・William Shakespeare について

*Prologue の一部暗誦、散文と韻文の違いについて言及

*不定詞と動名詞の使い分け、前置詞のまとめ

10 Language – the life of people (*New Crown* 3, Let's Read 3 の改編)

*３年間の文法のまとめ

**発表活動**：What I remember most の題で、３年間の印象に残った出来事を発表

## ☆高校３年間で扱った教材・文法項目

### 高１・１学期

1　The Story of English　(中３年用の旧 *New Crown* 3 のある課を改編)
主な文法：5 文型の復習、分詞の後置修飾、関係詞 that、It is … that の強調構文
*They lived in the area now called England.
*The language that they spoke was different from ours.
*It was in this language that Chaucer wrote his *Canterbury Tales*.

2　Beowulf　(Black Cat 社：Pre-intermediate –イラスト、CD、設問ともに良い)
主な文法：不定詞・完了形の復習、仮定法の導入、同時進行を示す分詞[分詞構文]
*I now think of you as if you were my son.
*I wish you could have seen his body here in the Hall.
*Now the watchman left them, saying he had to go back.

3　Railroad Man　(南雲堂：*Bob Greene's Eye for America* 中の１編- 作品に余韻あり)
主な文法：make /let/have + O + C(不定詞)、may have + 過去分詞、with ○ ～
*He made the passengers feel special.
*He may have been just the man behind the bar.
*With the government running the railroad, there was not the same feeling now.

**発表活動**：１学期の３課に関連したテーマでスピーチ（サマリー、コメントなど）
**夏課題**：*The Body*　by Stephen King (Penguin Readers, Stage 5 Upper-Intermediate)

### 高１・２学期

4　The Body の復習
主な文法：with ○ ～(復習)、分詞構文(復習)、過去の習慣の would
*I went to the market, with coins jumping in my pocket.
*Behind me, I could hear Chopper coming, shaking the earth.
*I would often go fishing there.

5　Are We Alone in the Universe?　(*Unicorn English Course* I, L.8 の改編)
主な文法：仮定法過去、未来進行形、I wish 過去形
*If the shapes on the rock were fossils, it would be evidence of life.
*After 26,000 years, Voyager 1 will still be travelling in our solar system.
*I wish we had evidence already.

6　Medusa / Perseus and Andromeda　(成美堂：『ギリシャ神話』中の２編)
主な文法：with ○ ～(復習)、繰返しを避ける that
*She was chained naked to the rock, with her only covering her long blond hair.
*Cassiopeia dared to compare her beauty with that of sea nymphs.

7　Thomas Jefferson　(北星堂：*People Who Made Our Country Great* 中の１編)
主な文法：同族目的語、過去完了、the +比較級, the + 比較級、
*As a boy, Tom led a happy life.
*The government in England asked for things that it had not asked them before.
*The more he thought about independence, the more he believed that it must come.

**発表活動**：独立宣言の一部を暗唱発表 (We hold these truths to be self-evident …から)
**冬課題**：私が、北京師範大学附属実験中学に出張するため、時間がなく課題なし)

**高１・３学期**

8　Robert Scott – the Race to the Pole (北京師範大学附属実験中学使用教科書の１編)

主な文法：仮定法過去完了、If に代わる仮定表現、完了分詞構文

*If he had known more about dog sledges, he would have returned to his camp.

*His party returned two years later, having reached further south than before.

9　The Curse　by Arthur C. Clark　(Penguin: *Modern British Short Stories* 中の１編)

*SF の短編。巧みな文章構成に慣れるための入試休業期間中の課題

10　Rachel Carson –A Fable for Tomorrow (*Unicorn English Course* 1, Suppl. Reading)

主な文法：前置詞＋関係代名詞、分詞構文（過去分詞の場合を含む）のまとめ

*Some of the water also finds its way into wells from which human drink.

*Various corporations criticized Carson, calling her a "hysterical" scientist.

*A grim specter has crept upon us almost unnoticed.

**発表活動**：The book I would recommend　(お薦めの本の内容を紹介する)

**高２・１学期**

1　Poetry for You　by C. Day Lewis　(Basil Blackwell 社：冒頭の数ページ)

*英詩の技法について rhyme, alliteration, personification, iambus, trochee など)

*Milne の児童詩、ナンセンス詩、Paul Simon の歌詞、Wordsworth, Burns, Tennyson

*新しい文法なし→1 年の文法の復習

2　Winnie-the-Pooh　by A.A. Milne　(Methuen Children's Books 中の第５章まで)

主な文法：must/may have + 過去分詞（復習）、仮定法（復習）、完了不定詞、

*I don't seem to have felt how for a long time.

*You must have left it somewhere.

*Suppose you wanted to catch me, how would you do it?

3　A Tour of the Brain　(*Unicorn English Course* II, L.5 の改編)

主な文法：関係詞の非制限用法、複合関係詞(wh- +ever)、擬似関係詞 as

*Sandra Wilson, who is a well-known researcher, says, "Brain studies are exciting."

*Whatever differences we find between men's and women's brains, ...

*But size of [the brain] does not predict intelligence, as was once thought.

**発表活動**：１学期の３課に関連したテーマでスピーチ（サマリー、コメントなど）

**夏課題**　*New Tales from Shakespeare*　(成美堂：Green という児童作家による翻案)

**高２・２学期**

4　Lone Vote – the Life of Jeannette Rankin　(*Unicorn English Course* II, L.6 の改編)

主な文法：仮定法現在、The moment ...、make it +形容詞+that ...

*It was necessary that she have a bodyguard for some time.

*The moment she voted "no," some Congressmen shouted at her.

*She wanted to make it clear that war is wrong.

5　William Shakespeare / The Merchant of Venice (成美堂の夏課題の復習)

ビデオ視聴、(DVD あり)

有名な場面を原文で読む（Shylock のセリフ、Portia の"Mercy" Speech）

主な文法：仮定法の復習、大過去、might have +過去分詞

*Antonio loved Bassanio as if he were his son.

*Scarcely had Bassanio and Gratiano set out for Venice, when Portia began to wonder how she could help to save Antonio.

6 Charles Darwin: The Making of a Naturalist（*Autobiography*, Penguin 版 *Origin of Species* の新版の Introduction などより編集）

主な文法：仮定法で if の代用となるもの、前置詞+関係代名詞+to …の形

*We cannot of course know whether Darwin would have become an evolutionist without the *Beagle* voyage.

*I have no words with which to express my gratitude.

*On first examining a new district nothing can appear more hopeless than the chaos of rocks.

**発表活動**：Barbara Lee's speech, Roosevelt's Declaration of War against Japan, Shylock の独白(Hath not a Jew eyes?), Portia の 'Mercy' speech のどれか１つを選び、１分程度暗誦し発表する。

**高２・３学期**

7 The Civil War（『アメリカの小学生が学ぶ歴史教科書』(Japan Books)より改編）

特に新たな文法項目なし

8 The Coup de Grâce (by Ambrose Bierce)（『ビアス短編集』研究社小英文叢書より抜粋）

南北戦争を背景にした本格的な短編。描写が凝っており、高２の最後の力試しとして扱う。

主な文法：分詞構文、仮定法(いずれも復習) *分詞構文が多用されており、文章の効果としての分詞構文が納得できた、という生徒の感想あり。

*Our commander stood looking ahead with his hand shading his eyes.

*One pig stood with its back to him, its shoulders sharply elevated.

*Not knowing where to go, the officer stood leaning against a tree.

*But for the restraining influence of mutual relation to Caffal, these two patriots would have endeavored to deprive their country of each other's services.

9 Lincoln's life and his Gettysburg Address（『アメリカを築いた人々』(北星堂)中の一遍 Abraham Lincoln の項より。Gettysburg Address については『アメリカ精神の英語』（筑摩書房）の注釈を利用。音源は『一流の朗読で聴く名文』(マクミラン・ランゲージハウス)の CD を利用）

特に新たな文法項目なし。

南北戦争の背景を踏まえて、リンカンの生涯と Gettysburg Address の理解。暗誦発表。

**発表活動**：Gettysburg Address の暗誦

**レポート**：Owl Creek Bridge(A. Bierce のもう１つの傑作)を読んで

**高校３年生：英語リーディングのカリキュラム**

＊ 高校３年生は、受験を意識して、原則として１時間完結で様々な文章を読んだ。従って、毎回読んだ教材を一々はあげない。週３時間あるので、それを３つの異なった活動に充てた（３つの活動について詳しくは、本論集の英語科・八宮の高３の実践を参照）。
そこで扱ったいくつかの教材を以下にあげる。

**高３・１学期**

以下の３つの柱で様々な教材を扱う。

1　500 語程度の中文（主に過去の入試問題から）
2　リスニング＋速読（あとに述べる教材から）
3　1000 語を超える長文を読む（短篇や一般紙の長めの記事など）

具体的な教材例

1) Doping in Sports (L)
2) The Psychology of Jokes (L)
3) Can a Good Doctor Be Honest? (L)
4) The Strange Appeal of Opera (L)
5) Clothes Make the Man (Richard Matheson の短篇集 *The Box* 中の１篇)
6) O'Malley and Schwartz（*The Universe of English II* 中の Patrick McGrath の短篇）
7) The Nightly Battle（*The Universe of English* 中の１編）
8) And Man Made Life (*The Economist* のコラムから)
9) My Life between Japan and America (Edwin O. Reischauer の自伝の一部)

**発表活動**：今学期扱った文章・話題のうち１つについて１分程度、英文要約・コメント

**高３・２学期**

以下の３つの柱で様々な教材を扱う。

1　英米の雑誌の論説文を読む
2　リスニング＋速読（あとに述べる教材から）
3　短篇・歴史的なスピーチを味わう

具体的な教材例

1) Sleep (L)
2) Seeing through the Fog of War (L)
3) A Short History of Taxes (L)
4) The Rosetta Stone (L)
5) Brilliant Mistakes (*The New York Times Magazine* のコラムから)
6) No Country is an Island (*Scientific American* のコラムから)
7) Translational Ecology (*Science* のコラムから)
8) The Eyes Have It (*The Expanding Universe of English II* 中の P. K. Dick の短篇)
9) Why Do We Laugh? (*The Expanding Universe of English II* 中の１篇)
10) "It's Sensitive. Really." (*The New York Times* の記事の改変・東京医科歯科大入試)
11) "Don't call me birdbrained" (*New Scientist* の記事の改変・東京医科歯科大入試)
12) "I Have a Dream" (Martin Luther King Jr.の歴史的スピーチ)

**発表活動**：キング牧師のスピーチの一部暗誦、または今学期の話題について英語コメント

*上で(L)はリスニングで、いずれも『大人のための英語教科書』（山本史郎他著・IBC パブリッシング社）より

## 補足資料２：６年間の授業アンケート（リーディングの受講者 131 人中 106 人分回収）

1　教材について
a 現状のプリント形式で良い　(98)
b 教科書をやったほうが良い　(0)
c 教科書を終えた後、３学期に読み物など行うのが良い (6)
●プリント教材のレベルは？
a むずかしい(12)　b ちょうどよい(79)　c やさしい(1)　d その他（教材によって差あり）

2　授業形式について
a 現在の形（英語による導入→内容理解→音読）でよい　(56)
b もっと構文などを理解させ和訳をしたほうが良い。　(22)
c 予習させ、授業ではサマリーや口頭練習に重きを置くのが良い。(4)
d その他：( テスト形式で行う(1)。現在の形でよいが構文に重点を置く(1)。)

3　パフォーマンスについて
a 現状で良い（学期末に行う）(78)
b 各課ごとに口頭発表活動を行うのが良い。(3)
c 不要である。(25)　d その他：(1 度くらいは、自由課題でやると面白い)
●形式は？　a スピーチ(70)　b 暗唱(23)　c 対話(12)　d 劇(6)　e ディベート(7)　f その他
●効果は？　a 役立った(37)　b 役立たない(4)　c 何とも言えない(59)　d その他
●準備は？　a あまり負担ではない(14)　b 少し負担である(68)　c 相当負担である(11)　d その他

4　文法の扱いについて　（補足：高１のはじめに『英文法解説』を全員に購入させ、必要に応じて言及したが、特にそれに特化した授業や試験は行わなかった。）
a 現状で良い（課の終わりにまとめ）　(44)
b『英文法解説』などを体系的に扱う　(50)
c その他（ 課のまとめで扱う量をもっと増やす(1))

5　単語について　（補足：授業プリントに注釈の形で英語による言いかえなどを付していた程度。）
a 現状で良い（プリントでの解説程度）(48)　b 学習した個所の単語テストをしたほうが良い (44)
c 単語帳を持たせて、体系的にテストをしたほうが良い (16)
d その他　( なし )

6　サイド・リーダー（副読本）について
a 現状（年に１～２回）でよい (74)　b 年に４～５回やってほしい (5)　c 不要である (16)

7　教材の中で、印象に残るものがあったらあげてください。
理由もあれば書いてください。
The Body (15),　The Black Cat (15),　The Merchant of Venice (13), The Coup de Grace (9)
Winnie the Pooh (7),　King's Speech (7),　The Curse (7),　Beowulf (7),
シャイクスピアの作品、ギリシャ神話、ビアスの短篇、などは総じて人気が高かった。
一方、数は少なかったが The Poetry, Lincoln,などを学んだことは教養になった、との回答あり。

8　高３リーディングについて
今回の形式について（入試の中文、リスニング＋速読、短編（超長文）の３パターン）
a 現状でよい (85)　b 改善したほうが良い (→具体的に　入試のリスニングも扱って欲しい(2))
初見で問題文を読み解く授業形態について
a 現状でよい (85)　b 改善したほうが良い (→具体的に 黙読している時、説明をはさまないで欲しい(3))